marantz®

Integrated Amplifier

PM7003
PM8003

取扱説明書

マランツのステレオインテグレーテッドアンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。

なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社営業所／サービスセンターにお問い合わせください。

付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品がそろっていることを確認してください。

- リモコン……1個

- 単４乾電池……2個

- AC電源コード……1本

- 取扱説明書（本書）……1冊
- 保証書（箱に貼付）……1枚

目次

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警　告

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。
- この機器を設置する場合は、壁から 20cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。
- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は 50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
  - この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  - この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

警告

● この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。

● この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

● この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

● エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

接触禁止

● 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

分解禁止

● この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

● この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注意

● オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。

● 電源を入れる前には、音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量(ボリューム)を最小にしてください。

● 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス+とマイナス－の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● ご不要になった電池を廃棄する場合は、テープなどで絶縁し、各地の地方自治団体の指示(条例)に従って火気のない場所に処分してください。

● 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けて下さい。

電源プラグをコンセントから抜く

● 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。

● 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

● お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● この機器または電池が入ったリモコンを次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

- 直射日光が当たる場所
- 窓を閉めきった自動車の中
- 火や暖房器具など熱を発生する機器の近く

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

注　意

● この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

● 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス＋端子とマイナス－端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

● この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

● この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

● 5 年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

● 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池が液もれしている場合は、ただちに電池を処分してください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。

ケース内に付着した液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

● 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外の部分は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面や高温注意マークの周辺は高温になりますので絶対に触れないでください。

AMP_080708F1

本機の特長

PM7003 と PM8003 の特長

フルディスクリート・電流帰還型アンプ

本機のプリアンプとパワーアンプにはディスクリート部品で構成されたマランツ独自の電流帰還型回路を採用しています。上級機で培った最新の技術を取り入れたハイスピードアンプです。

HDAM-SA3 テクノロジー

電流帰還型プリアンプとパワーアンプの要となる電圧／電流変換回路部には、上級機 SC-11S1 で開発されたアンプモジュール HDAM-SA3 と同等の回路を搭載しています。

CD ダイレクト・バッファー・アンプ

CD 入力端子には端子の直近に CD 専用の入力バッファーアンプを搭載しています。このバッファーアンプはディスクリート構成の高速バッファーアンプで、左右チャンネルの干渉を防ぎ信号を忠実にプリアンプに伝送します。

瞬時電流供給能力の向上

スペックが同じアンプでも音質が違うことは一般的に知られていますが、マランツではその原因をスピーカーのドライブ能力の違いにあると考えています。本機のパワーアンプは瞬間的に 25 アンペア以上の電流を流す能力を持っていますので、スピーカーを強力にドライブします。

ショート・パワー・ライン・レイアウト

瞬時電流供給能力を向上させるために電源回路とパワーアンプの出力段を一体化したショートパワーラインレイアウトを採用しています。このレイアウトは大電流ラインを最短で結び、左右対称になるよう配置しています。

PM8003 の特長

以下は PM7003 に比べ PM8003 がグレードアップしている項目です。

フルディスクリート・電流帰還型 PHONO イコライザー

MMカートリッジ用フォノイコライザーアンプには、上級機 SC-11S1 と同様のコンスタント・カレント・フィードバック型 PHONO イコライザーを搭載しました。

2 重シールド・トロイダルトランス

電源トランス特有の振動と漏洩磁束の少ないトロイダル型電源トランスを搭載しました。特に音質に悪影響を及ぼす漏洩磁束を抑えるため、外周にコアリングとショートリングの 2 重シールドを施しています。

大容量ブロック電解コンデンサ

パワーアンプ用電源回路には 18000µF の大容量コンデンサを搭載し、プリアンプ用電源回路には 4700µF のコンデンサを搭載しています。

高性能ボリューム

高音質コンデンサ

ダブルレイヤードシャーシ

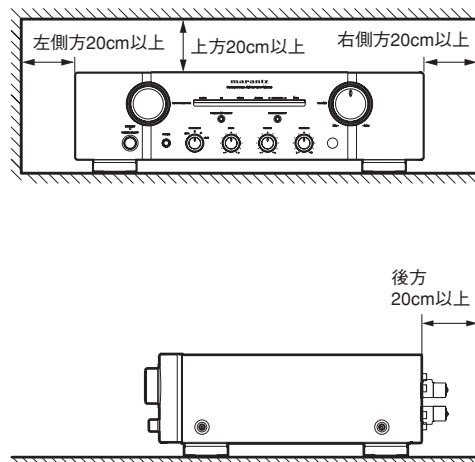
高級スピーカー端子

ご使用の前に

次のような場所には置かない

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。

- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所

放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。通風孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

使用中・使用直後に上面などの高温部には触れない

使用中と使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。 やけどのおそれがあり危険です。 特に上面などの高温部には触れないでください。

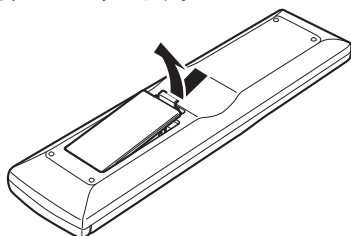
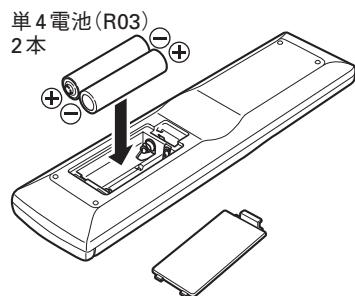
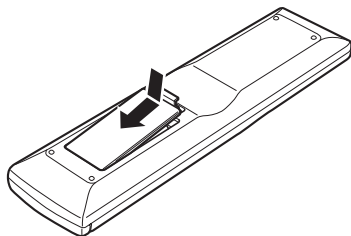
ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は､交流100V をご使用ください。
- 電源周波数は､50Hz 地域または60Hz 地域でご使用できます。

リモコンの使用について

リモコンに乾電池を入れる

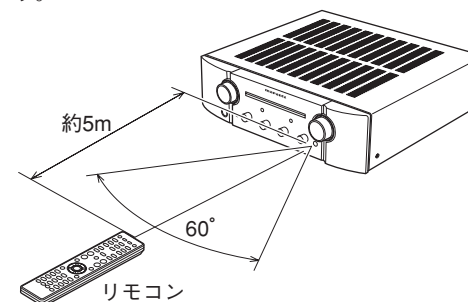
最初に付属のリモコンをご使用になる前に、リモコンに乾電池を入れてください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

1. 裏ぶたをはずします。

2. 電池の⊕⊖を正しく入れます。

3. カチッと音がするまでしめます。

乾電池の取り扱い方について

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

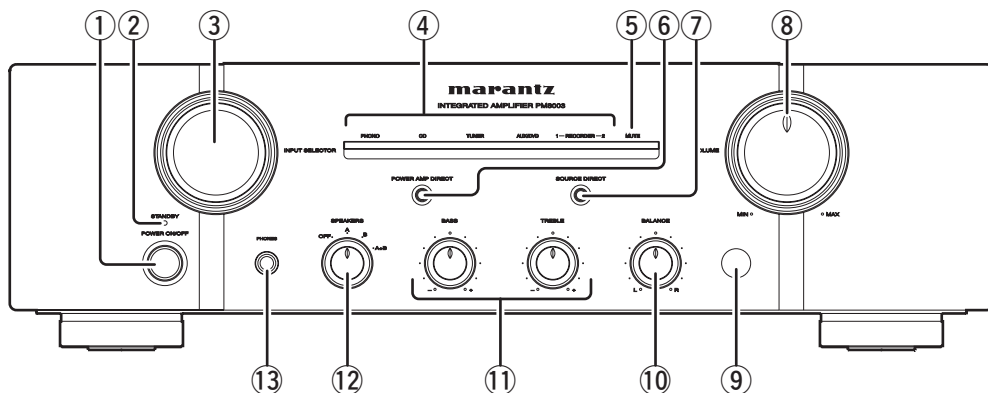
- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。
- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って処理してください。

リモコンの使用できる範囲

リモコンと本機の操作可能範囲は下図のとおりです。

使用上の注意

- リモコンの赤外線受光窓に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコンの赤外線受光窓の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称

前面

① POWER ON/OFF ボタン

このボタンを押すと電源が ON し、もう一度押すと電源が OFF します。ボタンが ON 状態では付属のリモコンで電源を ON/OFF することもできます。リモコン使って電源を OFF にしたスタンバイ状態では、POWER ON/OFF ボタンで再投入してもスタンバイ状態になりますので電源 ON 状態にはなりません。この場合はインプットセレクターつまみを回すかリモコン POWER ON ボタンを押すと電源 ON 状態になります。

② STANDBY インジケーター

スタンバイ状態で赤く点灯します。スタンバイ中はリモコンの POWER ON ボタンで電源を ON することができます。アンプの保護回路が動作した場合はこのインジケーターが点滅します。

③ INPUT SELECTOR つまみ

再生 / 録音する入力ソースを選択するつまみです。選択した入力ソースはファンクションインジケーターに表示されます。選択された入力ソースは電源を OFF したあとも記憶され電源再投入時も同じソースが選択されます。

④ ファンクションインジケーター

インプットセレクターつまみで選択した入力ソースを表示するインジケーターです。

⑤ MUTE インジケーター

リモコンの MUTE ボタンを押すとミューティング機能が働き音量を下げます。もう一度 MUTE ボタンを押すと解除します。また、ミューティング中にリモコンの VOLUME ＋ / －ボタンを押してもミューティング機能は解除します。
アンプの保護回路が動作した場合は約 15 秒間インジケーターが点滅しミュート機能が働きます。このインジケーターが点滅中は自動的にボリュームつまみが回り音量が下がります。

⑥ POWER AMP DIRECT ボタン

本機の背面にはパワーアンプダイレクト入力端子を装備しています。このボタンを 3 秒以上押すとボタン周囲のインジケーターが点灯し本機はパワーアンプとして動作します。
このとき、VOLUME つまみを回しても音量を変えることはできません。
パワーアンプダイレクトモードを解除する場合は、もう一度このボタンを 3 秒以上押してください。

⑦ SOURCE DIRECT ボタン

このボタンを押すとボタン周囲のインジケーターが点灯しバランスとトーンコントロール回路をバイパスして信号が伝送されますので、より良い音を楽しむことができます。このボタンが ON のときは BALANCE、BASS、TREBLE つまみでの調整はできません。もう一度ボタンを押すと解除されます。

⑧ VOLUME つまみ

つまみを時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。付属のリモコンで音量を調整することもできます。アンプの保護回路が動作した場合は、約 15 秒間自動的にボリュームつまみが回り音量が下がります。

⑨ 赤外線受光窓

付属のリモコンから送られるコントロール信号を受光する窓です。リモコン上部をこの窓に向けて送信してください。

⑩ BALANCE つまみ

L（左）、R（右）チャンネルどちらか一方の音量バランスを調節する場合に使用するつまみです。バランスつまみがどちらか一方に回し切られていると、反対側のチャンネルからは音が出ません。
SOURCE DIRECT ボタンが ON の状態では調整できませんのでご注意ください。

⑪ トーンコントロールつまみ（BASS/TREBLE）

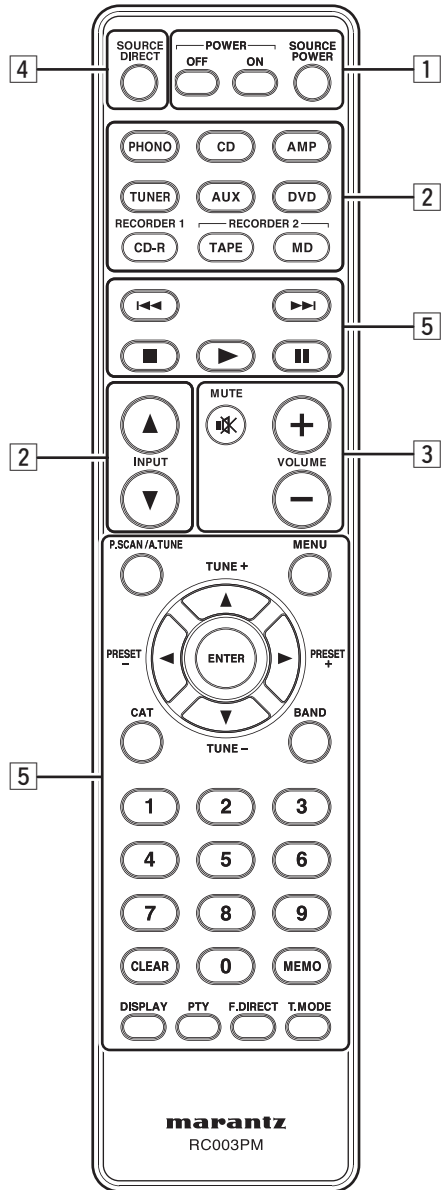
低音 (BASS) と高音 (TREBLE) の音質を調整するつまみで、それぞれのつまみを時計回りに回すと強められ、反時計回りに回すと弱められます。
SOURCE DIRECT ボタンが ON の状態では調整できませんのでご注意ください。

⑫ SPEAKERS つまみ

背面の SPEAKER SYSTEMS A および B 端子に接続されているスピーカーを選択するつまみです。
ヘッドホンをお使いになるときはスピーカー出力を OFF にしてください。

⑬ HEADPHONES ジャック

ステレオ標準プラグのヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンをご使用になる時は SPEAKERS つまみを OFF にしてお使いください。

リモコン

このリモコンは本機と赤外線受光窓の付いているマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤー及びチューナー、テープデッキなどをコントロールすることができます。リモコン操作によりコントロールできる内容が異なる場合もありますので、組み合わせる機器の取扱説明書も参照してください。

1 電源 ON/OFF ボタン

POWER ON ボタン

本機がスタンバイ状態のとき電源がオンします。

POWER OFF ボタン

本機が電源オン状態のとき電源スタンバイ状態になります。

SOURCE POWER ボタン

電源スタンバイ機能があるマランツ製品の電源オンとスタンバイの切換えをすることができます。2 の入力切換ボタンを押した後にこのボタンを押すと、ボタンに対応したマランツ製品の電源がオンまたはスタンバイに切り換わります。
AMP ボタンに続けてこのボタンを押すと、本機の電源がオンまたはスタンバイに切り換わります。

※リモコンの操作では本機の電源を完全にオフすることはできません。

2 入力切換えボタン

入力ソースを選択するボタンのグループです。

ご注意

本機の入力ソースとリモコンのボタンの相違は下記のとおりです。

本機	リモコンボタン
AUX/DVD	AUX、DVD
RECORDER2	TAPE、MD

本機の入力ソースが1種類に対して、リモコンモードは2種類となります。

接続したマランツ製のソース機器をリモコン操作する際、リモコンを接続したソースのモードにして、操作を行なってください。

INPUT ▲ ボタン

入力ソースを順送りするボタンです。
本体のファンクションインジケーターに表示される入力ソースを右に送ります。

INPUT ▼ ボタン

入力ソースを逆送りするボタンです。
本体のファンクションインジケーターに表示される入力ソースを左に送ります。

3 ボリューム調整ボタン

MUTE ボタン

ワンタッチで音量を絞りミュート状態にするボタンです。もう一度ボタンを押すとミュート解除します。
また、ミュート中に VOLUME ＋またはーボタンを押してもミュート解除します。

VOLUME ＋ ボタン

音量を大きくするボタンです。

VOLUME － ボタン

音量を小さくするボタンです。

4 SOURCE DIRECT ボタン

ソースダイレクトモードの ON／OFF を切り替えるボタンです。

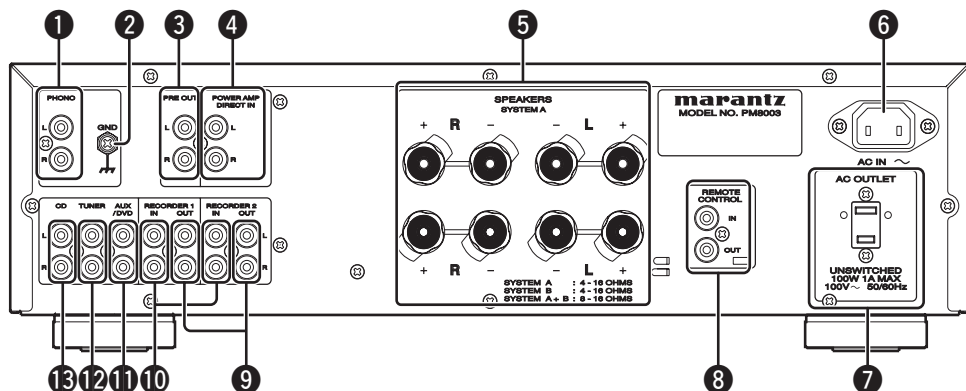
5 プレーヤーなどを操作するボタン

マランツ製 CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどを操作するボタンです。詳しくは、14 ページを参照してください。

各部の名称

背面

PM8003

PM7003

❶ PHONO 入力端子

アナログレコードプレーヤーに接続する端子です。MM カートリッジが使用できます。

❷ PHONO GND 端子

レコードプレーヤーからのアース線を接続してください。

❸ PRE OUT 端子

他のメインアンプやアクティブサブウーハーの入力端子に接続する端子です。パワーアンプダイレクトモードでは使用できません。

❹ POWER AMP DIRECT IN 端子

パワーアンプダイレクトモードで本機をパワーアンプとして使用する場合の入力端子です。他のプリアンプをお持ちの場合はこの端子に接続してください。このとき、ボリュームつまみを回しても音量を変えることはできません。

❺ SPEAKER 出力端子

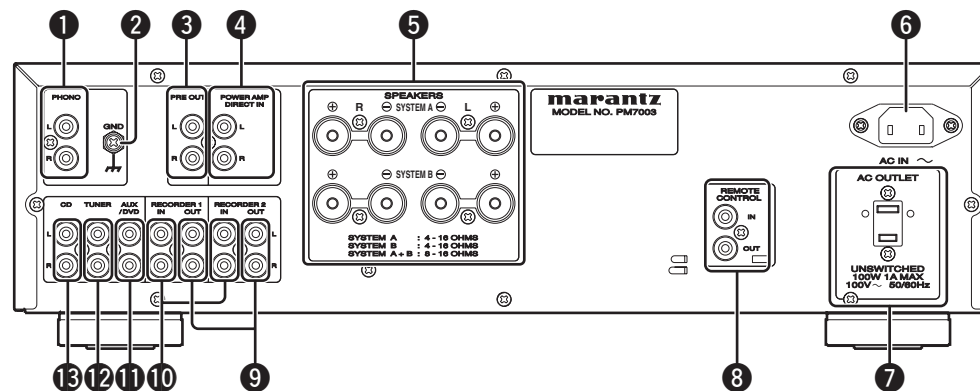
SYSTEM-A と SYSTEM-B の 2 系統のスピーカーシステムを接続することができます。フロントパネルの SPEAKERS つまみでスピーカー出力を ON/OFF することができます。

❻ AC INLET

付属の電源コードで電源コンセントに接続してください。

❼ AC OUTLET

他の機器の電源プラグを接続することができます。この電源コンセントは本機の電源スイッチとは連動しません。
接続できる機器の電力容量は 100W 以下です。100W を超える機器を接続すると内部のヒューズが切断し使用できなくなります。

> ⚠警告
> **絶対許容電力以上の機器を接続しないでください。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。**

❽ REMOTE CONTROL 端子

マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどリモートコントロール (D.BUS 端子) を持つ機器と接続する端子で、本機に付属のリモコンを使ってシステムコントロールすることができます。
詳しくは 13 ページを参照してください。

❾ RECORDER-1/RECORDER-2 出力端子

CD-R、MD デッキ、テープデッキなどの録音入力端子と接続する端子です。

❿ RECORDER-1/RECORDER-2 入力端子

CD-R、MD デッキ、テープデッキなどの出力端子に接続する端子です。

⓫ AUX/DVD 入力端子

DVD プレーヤーや他の音声機器などの出力端子に接続する端子です。

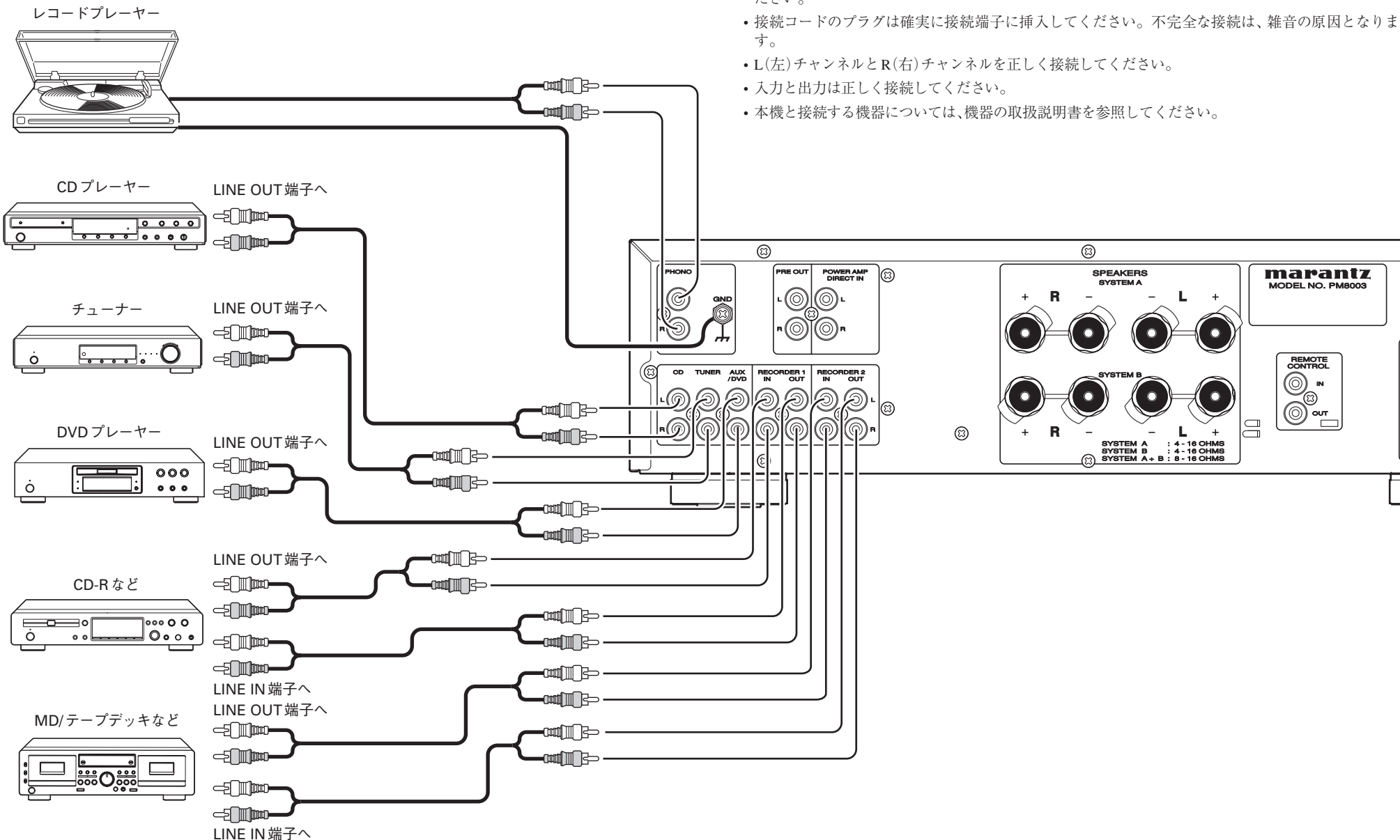
⓬ TUNER 入力端子

チューナーや他の音声機器などの出力端子に接続する端子です。

⓭ CD 入力端子

スーパーオーディオ CD プレーヤーや CD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。

基本接続

オーディオ機器との接続

ご注意

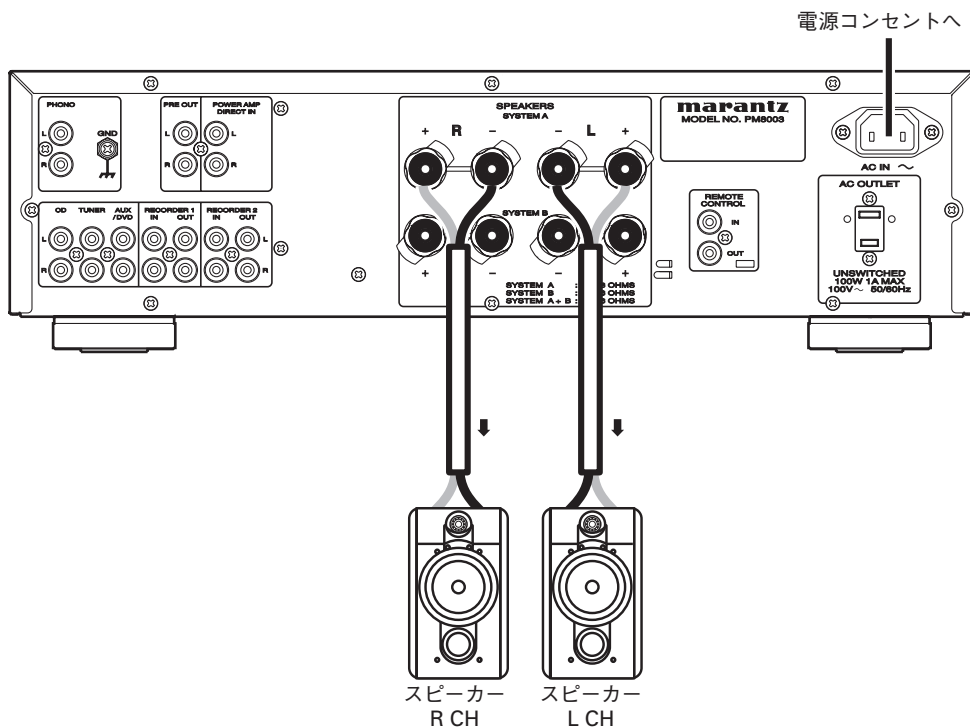
- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L（左）チャンネルとR（右）チャンネルを正しく接続してください。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続する機器については、機器の取扱説明書を参照してください。

基本接続

スピーカーシステムとの接続

お使いになるスピーカーシステムは以下の条件を満たしていることが必要です。以下の条件を満たしていない場合には、アンプの保護回路が動作し正しく再生できません。場合によってはアンプやスピーカーシステムが故障する恐れもあります。

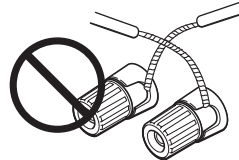
- 1組のスピーカーシステムのみお使いになる時は、インピーダンスが4 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。
- 2組のスピーカーシステムを同時にお使いになる時は、インピーダンスが8 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。

電源コンセントへ

スピーカー
R CH

スピーカー
L CH

- 前面のSPEAKERSつまみをAまたはA＋Bにしてください。

ご注意

- 回路への損害を防止するため、裸のスピーカーコード同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。

- 感電の恐れがあるので、電源がONのときはスピーカー端子に触れないでください。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違えた場合、信号の位相は反転し、再生される音楽は不自然になります。

スピーカーコードの接続について

- スピーカーコードの被ふくは下図のように剥いでください。

コードの端から約1cmくらいの所にカッターで切り込みをいれます

コードの端の被ふくをむきとります

芯線をよじります

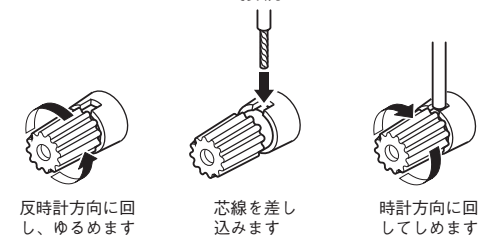
- スピーカーコードとの接続

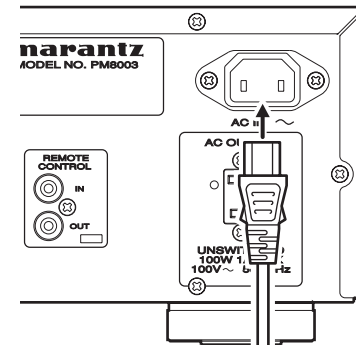
反時計方向に回し、ゆるめます

芯線を差し込みます

時計方向に回してしめます

- バナナプラグとの接続

バナナプラグを差し込みます

電源コードの接続

1. 付属の電源コードを本機の背面のAC INLETに差し込んでください。

2. 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

万一の事故のため、本機から電源コードが外せる配置にしてください。

基本操作

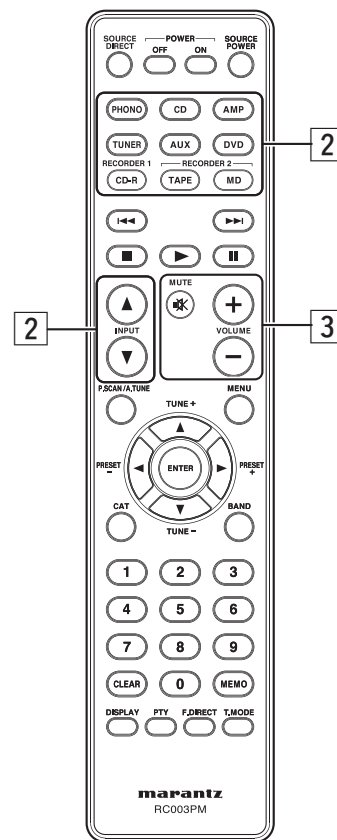
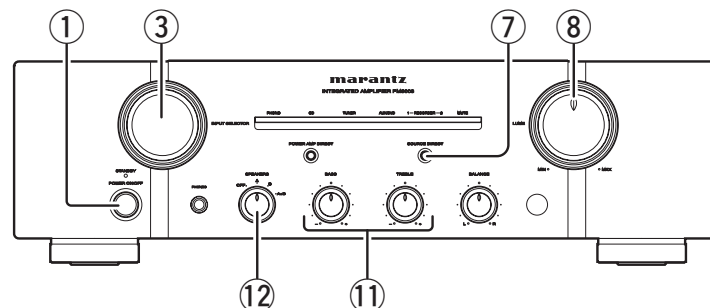
再生のしかた

代表的な例として CD プレーヤーでディスク再生およびアナログレコードプレーヤーでレコード再生をする手順を説明します。接続方法を参照し機器が正しく本機に接続されていることを確認してください。

CD プレーヤーによるディスク再生

1. CDプレーヤーのPOWER ON/OFFボタンを押して電源を入れます。
2. 続いて **VOLUME** つまみ⑧を回して音量を最小にしてから本機の **POWER ON/OFF** ボタン①を押して電源を入れます。電源を入れてから約8秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。
3. 本体の **INPUT SELECTOR** つまみ③、またはリモコンの入力切替えボタン[2]でCDを選択します。
4. SPEAKERS SYSTEM A端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、**SPEAKERS** つまみ⑫をAに設定してください。
5. CDプレーヤーにディスクを入れ、PLAYボタンを押し再生します。
6. 本体の **VOLUME** つまみ⑧、またはリモコンの **VOLUME +/−** ボタン[3]で音量を調整します。
7. お好みにより本体の**トーンコントロール**つまみ⑪を回して低音/高音を調整してください。この時本体の **SOURCE DIRECT** ボタン⑦をOFFに設定してください。

アナログレコードプレーヤーによるレコード再生

1. 本機の **POWER ON/OFF** ボタン①を押して電源を入れます。電源を入れてから約8秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。
2. 本体の **INPUT SELECTOR** つまみ③、またはリモコンの入力切替えボタン[2]でPHONOを選択します。不意のアクシデントを防ぐため **VOLUME** つまみ⑧を回して音量をMIN（最小）にしておくことをお勧めします。
3. 接続できるカートリッジはMMタイプです。MCカートリッジをお使いになる場合はステップアップトランス等をお使いください。
4. SPEAKERS SYSTEM A端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、**SPEAKERS** つまみ⑫をAに設定してください。
5. アナログレコードプレーヤーにレコードをセットしてレコードを再生します。
6. 本体の **VOLUME** つまみ⑧、またはリモコンの **VOLUME +/−** ボタン[3]で音量を調整します。
7. お好みにより本体のトーンコントロールつまみ⑪を回して低音/高音を調整してください。この時本体の **SOURCE DIRECT** ボタン⑦をOFFに設定してください。

応用接続

POWER AMP DIRECT IN 端子について

プリアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると本機をパワーアンプとして使用できます。
本機のフロントパネルの POWER AMP DIRECT ボタンを 3 秒以上押して ON にしてください。
プリアンプの使い方については、お使いになるプリアンプの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をパワーアンプとして使用する場合は、プリアンプ部は動作しませんので、INPUT SELECTOR、VOLUME、BASS、TREBLE、BALANCE 各つまみおよび、SOURCE DIRECT ボタンは使用できません。
- パワーアンプダイレクトモードを解除する場合は、POWER AMP DIRECT ボタンを 3 秒以上押してください。

PRE OUT 端子の接続

パワーアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると、本機をプリアンプとしても使用できます。
スピーカーシステムの接続に関しては、ご使用になるパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

バイワイヤリング接続

バイワイヤリング接続は音質を向上させるテクニックの 1 つで、スピーカーシステムの低音用入力端子と中高音用入力端子を別々のスピーカーコードでアンプと接続する方法です。
低音用スピーカーユニットで発生する逆起電力が中高音用スピーカーユニットに及ぼす影響が少なくすることができます。

バイワイヤリング接続にはバイワイヤリング接続に対応したスピーカーシステムである必要がありますので、スピーカーの取扱説明書でご確認ください。

SYSTEM A の端子には中高音用のスピーカーを接続し、SYSTEM B の端子には低域用のスピーカーをそれぞれ接続します。そして、フロントパネルにある SPEAKERS つまみを A ＋ B の位置に設定してください。

CDプレーヤー

Line
output端子へ

電源コンセントへ

MF/HF

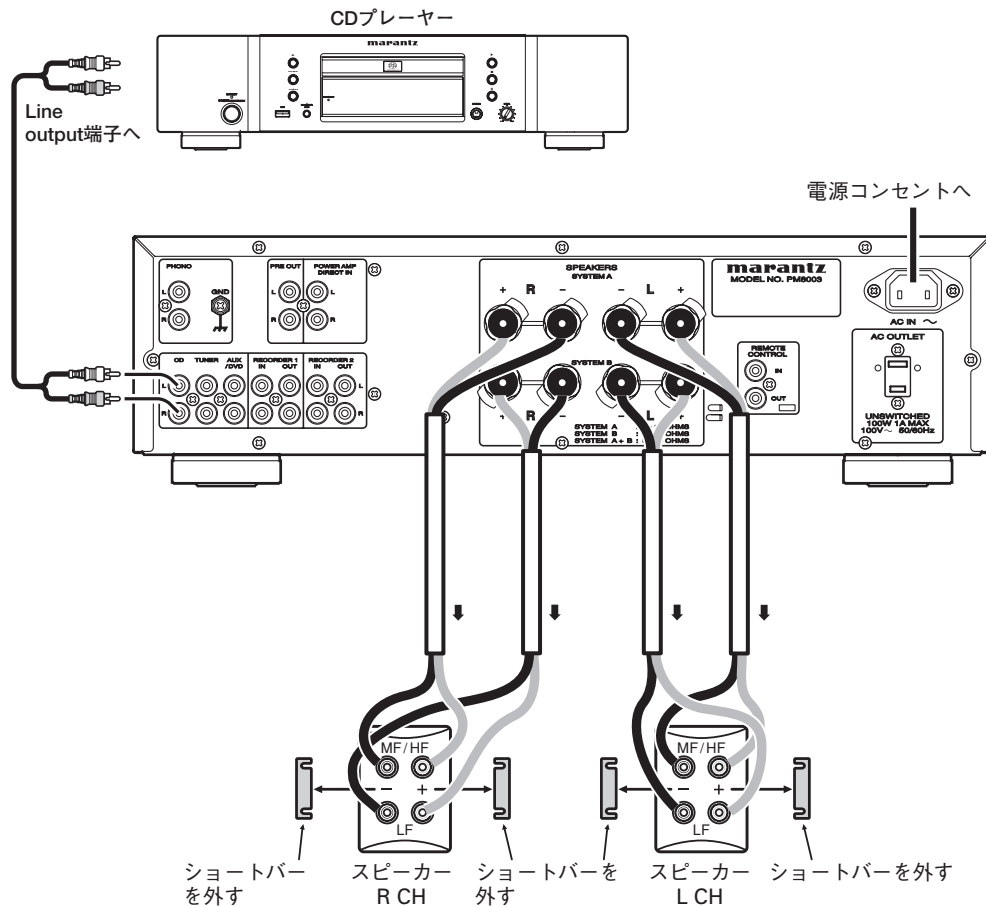
LF

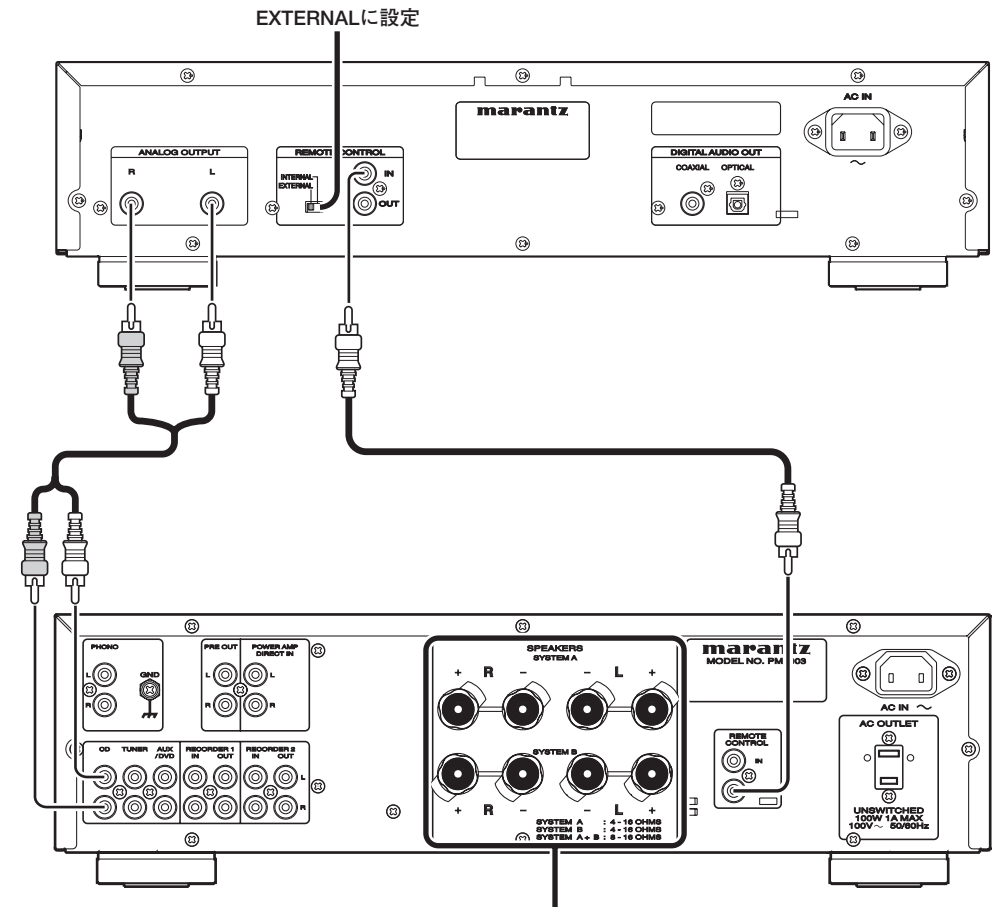
ショートバー
を外す

スピーカー
R CH

ショートバーを
外す

スピーカー
L CH

ショートバーを外す

リモートコントロール端子

リモートコントロール端子はマランツ製 CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどのリモートコントロール端子を持つ機器と接続する端子で、本機に付属しているリモコンを使ってシステムコントロールする時に使用する端子です。本機にはマランツ製 CD プレーヤーや DVD プレーヤーの基本機能を操作することができるシステムリモコンを付属しています。このリモコンを使って本機と CD プレーヤーをシステムコントロールする方法を簡単に説明します。
下図のように CD プレーヤーのリモートコントロール“IN” 端子と本機のリモートコントロール“OUT” 端子を接続し ,CD プレーヤーのスイッチを EXTERNAL に設定してください。
リモコンを本機の赤外線受光窓に向けて送信すると、本機と CD プレーヤーの両方を操作することができます。

スピーカーの接続は 10 ページを参照してください。

リモコン操作

CD

CD ボタンを押した場合は、5 のボタングループは下表のように機能します。CD 入力端子にはマランツ製 CD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機能
⏮	曲の頭出し
⏭	曲の頭出し
■	ストップ(停止)
▶	プレイ(再生)
❚❚	ポーズ(一時停止)
P.SCAN/A.TUNE	使用できません
MENU	使用できません
▲/TUNE+	使用できません
▼/TUNE-	使用できません
◀/PRESET-	使用できません
▶/PRESET+	使用できません
ENTER	使用できません
CAT	使用できません
BAND	使用できません
0-9	曲番号の入力
CLEAR	使用できません
MEMO	使用できません
DISPLAY	使用できません
PTY	使用できません
F.DIRECT	使用できません
T.MODE	サウンドモード の選択

TUNER

TUNER ボタンを押した場合は、5 のボタングループは下表のように機能します。TUNER 入力端子にはマランツ製チューナーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機能
⏮	使用できません
⏭	使用できません
■	使用できません
▶	使用できません
❚❚	使用できません
P.SCAN/A.TUNE	プリセットスキャン
MENU	使用できません
▲/TUNE+	チューニング(周波数)アップ
▼/TUNE-	チューニング(周波数)ダウン
◀/PRESET-	プリセット局の選択
▶/PRESET+	プリセット局の選択
ENTER	使用できません
CAT	使用できません
BAND	バンド切り替え
0-9	数値の入力
CLEAR	メモリーや入力内容の消去
MEMO	プリセット局番号の登録
DISPLAY	使用できません
PTY	使用できません
F.DIRECT	放送局の周波数を直接入力しての選局
T.MODE	オートステレオ／モノラル 切り替え

DVD

DVD ボタンを押した場合は、5 のボタングループは下表のように機能します。AUX/DVD 入力端子にはマランツ製 DVD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機能
⏮	チャプターの頭出し
⏭	チャプターの頭出し
■	ストップ(停止)
▶	プレイ(再生)
❚❚	ポーズ(一時停止)
P.SCAN/A.TUNE	使用できません
MENU	メニュー画面を表示
▲/TUNE+	カーソルを上に移動
▼/TUNE-	カーソルを下に移動
◀/PRESET-	カーソルを左に移動
▶/PRESET+	カーソルを右に移動
ENTER	選択項目の決定
CAT	使用できません
BAND	使用できません
0-9	数値の入力
CLEAR	使用できません
MEMO	使用できません
DISPLAY	再生情報の表示
PTY	使用できません
F.DIRECT	使用できません
T.MODE	使用できません

TAPE

RECORDER 2(TAPE) ボタンを押した場合は、5 のボタングループは下表のように機能します。RECORDER 2(TAPE) 端子にはマランツ製テープデッキを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機能
⏮	巻き戻し
⏭	早送り
■	ストップ(停止)
▶	プレイ(再生)
❚❚	ポーズ(一時停止)
P.SCAN/A.TUNE	使用できません
MENU	使用できません
▲/TUNE+	使用できません
▼/TUNE-	使用できません
◀/PRESET-	使用できません
▶/PRESET+	使用できません
ENTER	使用できません
CAT	使用できません
BAND	使用できません
0-9	使用できません
CLEAR	カウンターのリセット
MEMO	使用できません
DISPLAY	使用できません
PTY	使用できません
F.DIRECT	使用できません
T.MODE	使用できません

困ったときは

困ったときは下記の項目をチェックしてください。意外な操作ミスで故障と思われていることがあります。下記の項目をチェックしても直らない場合は、お近くの営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

現象	原因	処置
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードの接続を点検してください。
	スタンバイ (STANDBY) 状態になっている。	本体のインプットセレクターつまみを回すかリモコンの電源 ON ボタンを押してください。
	保護回路が動作している。	スタンバイインジケーターが点滅している場合は一旦電源を切り、1 分以上待ってからもう一度電源を入れてください。
電源は入るがスピーカーから音が出ない。	スピーカーの接続が不完全である。	スピーカーの接続を点検してください。
	入力コードの接続が不完全である。	入力コードの接続を点検してください。
	インプットセレクターつまみの位置が不適当である。	インプットセレクターつまみを正しい位置に合わせてください。
	ボリュームつまみが絞ってある。	ボリュームつまみを調節してください。
	• スピーカーセレクターつまみが OFF になっている。 • スピーカーセレクターつまみの位置が不適当である。	スピーカーセレクターつまみを接続したスピーカー端子の位置に正しく合わせてください。
	POWER AMP DIRECT ボタンの設定が間違っている。	POWER AMP DIRECT ボタンを正しく設定してください。
	ミュート機能が動作している。	ミュートインジケーターが点灯している場合はリモコンの MUTE ボタンを押しミュートを解除してください。
片側のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーの接続が不完全である。	スピーカーの接続を点検してください。
	バランスつまみの位置が正しくない。	バランス調整つまみを正しい位置に合わせてください。
左右の音が入れ替わっている。	左右のスピーカーまたは左右の入力コードの接続が逆になっている。	正しく接続しなおしてください。
レコード演奏中にノイズが出る。	レコードプレーヤーからのアース線が外れている。	PHONO GND 端子への接続を点検してください。
	PHONO 入力端子の接続が不完全である。	PHONO 入力端子の接続を点検してください。
	レコードプレーヤーの近くにテレビなどがあり影響を受けている。	設置位置を変えてみてください。
レコード演奏中に音量を上げるとハウリング現象を起こす。	レコードプレーヤーとスピーカーが近すぎる。	できるだけスピーカーと離して設置してください。
	レコードプレーヤーの台や床が振動しやすい。	レコードプレーヤーにインシュレーターがない場合は市販のインシュレーターを使用してください。

保護回路について

本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。
保護回路が動作すると直ぐにミューティング機能が働きます。このとき MUTE インジケーターが点滅する場合と、POWER ON/OFF ボタン上部の STANDBY インジケーターが点滅する場合があります。

電源投入時

電源投入時アンプ回路が安定するまでの約 8 秒間、保護回路が働きミューティング状態になります。その後、アンプの回路が安定すると保護回路を解除し音が出る状態になります。

過大な電流が流れたとき

過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れたときやインピーダンスが 4 Ω 未満のスピーカーシステムを接続して使用したときなど、設定以上の過電流を検出した場合に保護回路が働きます。誤ってスピーカーコードをショートしたときにも保護回路が働きます。
このとき MUTE（ミュート）インジケーターが点滅して自動的にボリュームを下げます。そして約 15 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。
また、過大な電流が流れ続けた場合は、アンプの電源を OFF し POWER ON/OFF ボタン上部の STANDBY インジケーターが点滅します。

過大な超低域の信号が入力されたとき

設定以上の過大な超低域信号が入力された場合も保護回路が働きます。このとき MUTE（ミュート）インジケーターが点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約 15 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。また、過大な超低域信号の入力が続いた場合やアンプの故障により直流電圧が検出された場合は、アンプの電源を OFF し POWER ON/OFF ボタン上部の STANDBY インジケーターが点滅します。

メインアンプが加熱したとき

過大な信号を入力された状態で連続使用した場合などメインアンプ部の温度が設定以上の温度になると保護回路が働きます。また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や狭いラックに入れての使用した場合にも設定以上の温度になると保護回路が働きます。このときパネル中央の MUTE（ミュート）インジケーターが点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約 15 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。
保護回路が動作してから一定時間内に温度が下がらなければ、アンプの電源を OFF し POWER ON/OFF ボタン上部の STANDBY インジケーターが点滅します。

アンプが故障したとき

アンプの電源回路に異常を検出した場合は保護回路が働きアンプの電源を自動的に OFF します。また、内部のヒューズが切れた場合も保護回路が働きアンプの電源を OFF します。このとき POWER ON/OFF ボタン上部の STANDBY インジケーターが点滅します。
この場合、すぐに電源を抜いて、お近くの営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

その他

仕様・外観寸法図

定格出力（20Hz－20kHz両ch同時駆動）
....70W×2（8Ω負荷）
.... 100W×2（4Ω負荷）

全高調波歪率
（20Hz－20kHz両ch同時駆動、8Ω負荷）
....0.02%

出力帯域幅（8Ω負荷、0.05%） ....5Hz－60kHz

周波数特性（CD、1W、8Ω負荷）
.... 5Hz－100kHz ±3dB

ダンピングファクター（8Ω負荷、20Hz－20kHz）
.... 100

入力感度/入力インピーダンス
PHONO（MM） 2mV/47kΩ
CD、LINE、TUNER、AUX/DVD、RECORDER
.... 200mV/20kΩ
MAIN IN.. 1.6V/20kΩ

出力電圧/出力インピーダンス
PRE OUT 1.6V/600Ω

PHONO最大許容入力（1kHz）
MM.. 100mV

RIAA偏差（20Hz－20kHz） .... ±0.5dB

S/N比（IHF Aネットワーク、１W出力、8Ω負荷）
PHONO（MM）
...............................(PM7003) 85dB（5mV入力）
...............................(PM8003) 87dB（5mV入力）
CD/LINE
..........................(PM7003) 88dB（500mV入力）
..........................(PM8003) 90dB（500mV入力）
POWER AMP DIRECT IN.......................106dB

トーンコントロール
BASS（50Hz） .... ±10dB
TREBLE（20kHz） .... ±10dB

電源電圧....................................AC100V、50/60Hz

消費電力
（J60065） 200W

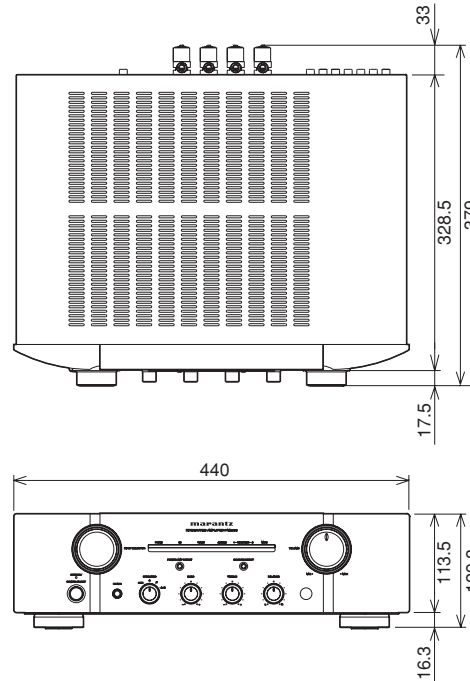
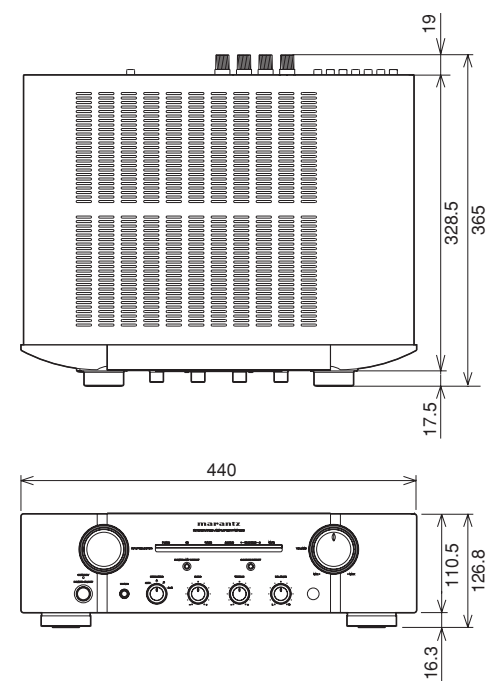
待機消費電力..0.3W

付属品
リモコン..1
単4乾電池...2
AC電源コード 1

最大外形寸法（本体）
幅..440mm
高さ（PM7003）................................. 126.8mm
（PM8003）................................. 129.8mm
奥行き（PM7003）.................................365mm
（PM8003）.................................379mm

質量（本体）（PM7003）................................. 10.5kg
（PM8003）................................. 12.0kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

PM8003

PM7003

単位：mm

お手入れ

- セットが汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を5〜6倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ヘッドホンのご使用について

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないよう注意してください。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より１年間です。
お買い上げ販売店又は弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理について。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または弊社営業所・サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度“困ったときは”をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社営業所、サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品名　インテグレーテッドアンプ
2）品番　PM7003/PM8003
3）シリアルナンバー（製造番号）
4）お買い上げ日　年　月　日
5）故障の状況（できるだけ具体的に）
6）ご住所
7）お名前
8）電話番号

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間
9：30－12：00　13：00－17：00
（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。
http://www.marantz.jp

Printed in China　　10/2008　541110081117M　mzh-d